

令和6年度 看護の人材育成と活用等に関する連絡協議会 議事録

日時: 令和6年10月22日(火)13:28~14:50

場所: 岐阜県立看護大学 第1会議室

出席者: <委員> 青木京子(公益社団法人岐阜県看護協会会長)、田口路代(地方独立行政法人岐阜県総合医療センター副院長兼看護部長)、國井真美子(市町村保健活動推進協議会保健師部会会長:羽島市)、加藤直子(一般社団法人岐阜県助産師会会長)、居波由紀子(岐阜県健康福祉部保健医療課課長兼健康推進室長)、黒江ゆり子(岐阜県立看護大学名誉教授) 高橋美嘉(岐阜県立看護大学修了者代表(大学院同窓会長))

<大学> 北山学長、松下学部長、梅津研究科長、大川看護研究センター長、土井事務局長、清水学務課長、齊藤企画担当、大野企画担当

* 敬称略

(記録作成: 事務局 大野企画担当)

1. 会長の選出

事務局より「連絡協議会設置要綱」第4条の規定に基づき委員の互選により会長を設置することになっているが、慣例により事務局から、公益社団法人岐阜県看護協会会長である青木京子委員に会長就任推薦が提案され、承認された。

2. 議題

大学院博士前期課程の生涯学習支援としての意義や課題等について

1) 大学院における看護職の生涯学習支援に関する概況

北山学長より議題の提案趣旨について説明された。

・大学院入学・修了状況

梅津研究科長より、資料1に基づき大学院入学・修了状況について説明がなされた。

・学生及び学生の職場の同僚・上司による三者評価

梅津研究科長より、資料2に基づき、学生及び学生の職場の同僚・上司による三者評価について説明がなされた。

・修了生の活動状況に関する質問紙調査結果

北山学長より資料3に基づき、修了生の活動状況に関する質問紙調査結果について説明された。

3. 意見交換

各委員からの意見、質問等は以下のとおり

田口委員

大学院での生涯学習は非常に大切であると考えている。

大学院で得た経験が、次の研究につながっている。

修了生は非常に前向きな姿勢でまわりに良い影響を与えている。

加藤委員

看護職は専門性の強い分野であるため、研究は非常に大切である。今後大学院を含め大学と良いつながりがあると良いと思っている。

高橋委員

大学院での学びは、学生への教育で還元できている。

大学院修了後に所属が変わったため、まわりの同僚を巻き込んで何かを取り組むのは難しかった。

居波委員

修了生は非常に前向きな姿勢であり、職場でもリーダーシップを取っている。大学院へは個人の希望で進学している。そういった職員はもとから素質があったとも思う。

これまではある程度大学院への進学希望者がいたが、最近では希望する職員が少なくなっている。また、職員の人数が減っているなかで後押しするのも苦しさがある。

國井委員

市町村の保健師の業務には研究の対象となるようなフィールドはある。

ただ日常業務の多忙さ、人員の不足等大学院への進学を躊躇する要因は様々存在している。

学部の卒業生に対して大学院の広報をもっと強化してはどうか。

黒江委員

修了生がまわりに勧められない理由があるのではないかと感じている。

社会全体がリーダーになることを避ける傾向がある。リーダーシップが取れる人材の育成が求められている。

大学院への入学者を増やすには一日体験入学といったこれまでとは異なる取り組みや工夫が必要ではないか。

青木議長

コロナ禍を体験し看護職に変化が生じていると思うがいかがか。

田口委員

コロナ禍を経て学ぶ姿勢に変化が起きた(対面からWEBへ)。

加藤委員

看護職者はみな学ぶ意欲が強い人が多い。学びたいと思っている人が少ないわけではないと思う。

青木議長

大学院への入学を促進するためなにか支援策はないだろうか。

居波委員

現場在職のまま大学院での研究実践は、所属の理解や協力が不可欠。日常業務の多忙さや人員不足により大学院へ進学する、させる余裕がないが、所属のバックアップ体制は必要。

國井委員

希望する職員に対してはもちろん応援したいが、市町村の保健師も日常業務の多忙さ人員不足があり、大学院へ送り出せない状況にある。

大学院に入って学べることが具体的にみえれば進学を考えることができると思う。

田口委員

CNS(専門看護師)等の資格取得の場合、学費は病院が全額負担している。ただ、資格取得のない自主的な大学院への進学に関しては各職員へ金銭的支援を行っていない。

今の職員は大学院への進学に限らず、認定看護師、特定行為等の学習に対して消極的である。病院としてもどうしたら積極的な参加につなげられるか考えている。

管理者が学ぶことの大切さや、質を高めるための方策を発信しないとスタッフのモチベーションや学習

意欲が上がらないので、スタッフに対する働きかけが重要であると思う。

高橋委員

大学院という場を選択肢の1つとして情報提供してほしい。自分自身学部の卒業生でもあり、学部時代から大学院の存在は知っていた。学部生の頃から進学を目指していたわけではないが、社会人になりふとした時に大学院へ進学しても良いと考えるきっかけになった。

修了生としては給与と休日の保証等個人の努力によらない支援をして欲しいと感じている。自分の場合は勤務日数の関係で修了後勤務先を変えざるをえなかったもので、多様な働き方を認めてほしい。

北山学長

現在県内の医療施設等で週3日勤務等の多様な働き方を選択できる環境はどの程度整っているのか。

田口委員

病院の場合、診療報酬という観点から医療機関において多様な働き方を認めることは難しいと思う。

北山学長

高橋委員の言及された要望は実際大学院への進学を希望している人達にとってネックとなっていると思う。子育てをしながら週に3日程度働きながら大学院へ通学できるような施設があれば大変ありがたいと思っていた。

ただ県内の施設では柔軟な働き方は難しいとも感じた。

田口委員

病院によっては、大学院への通学を職専免として取り扱い、病院として支援している施設もある。

青木議長

看護師の役割が変化する中でリーダーシップのとれる看護師の養成していくことが課題であると感じている。価値観や働き方も多様になり、生涯学習をどう支援していくのかも今後考えていく必要がある。

配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 配席図
- ・ 看護の人材育成と活用等に関する連絡協議会設置要綱
- ・ 大学院入学・修了状況 資料1
- ・ 学生及び学生の職場の同僚・上司による三者評価のまとめ 資料2
- ・ 修了生の活動状況に関する質問紙調査結果 資料3
- ・ 令和5年度卒業生就職・進路状況（施設別） 資料4
- ・ 令和5年度卒業生の就職選択について 資料5
- ・ 卒業生への大学の支援 資料6
- ・ 令和5・6年度卒業生への支援実施報告 資料7
- ・ 岐阜県立看護大学の活動と地域との関連 資料8
- ・ 令和6年度共同研究事業一覧 資料9
- ・ 令和6年度看護実践研究指導事業一覧 資料10
- ・ 令和6年度「共同研究報告と討論の会」ご案内 資料11
- ・ 岐阜県看護実践研究会会員への研究支援の実施状況 資料12
- ・ 年度別国家試験合格状況等 資料13

※岐阜県立看護大学大学院看護学研究科学生募集要項（2次募集）

※岐阜県立看護大学案内

※岐阜県立看護大学院案内

※看護研究センターパンフレット